

ἀλληλουιά

ハレールーヤ

知っておきたいキリスト教のことば (167)

ハレルヤ はれるや

「ハレルヤ」という言葉はヘブライ語で、「神を賛美せよ」、「主をほめたたえよ」という意味を持ちます。「ハッルー」が「賛美せよ」という意味で、「ヤー」が「ヤハウエ(神)」を指します。

ローマカトリック教会のミサでは、「アレルヤ唱」が福音書朗読の前に歌われます。「アレルヤ、アレルヤ、(聖書のみ言葉)、アレルヤ、アレルヤ」という言葉を、典礼暦(教会暦)に応じた曲で歌っていきます。

古代イスラエルにおいても会衆の参加を促すために、「ハレルヤ」が祭儀での詩編朗唱に用いられていました。わたしたちが用いている聖書を見ても、詩編 146～150 編の最初と最後には「ハレルヤ」という言葉が使われています。これは頌栄の意味を持っています。この 146～150 編を「ハレルヤ詩編」と呼びます。

このように「ハレルヤ」という言葉は宗教的感動をあらわす言葉で、礼拝や音楽などで用いられてきました。聖公会の聖餐式でも、最後の派遣の場面で、「ハレルヤ！主と共に行きましょう」、「ハレルヤ！主のみ名によって」という唱和を唱え(あるいは歌い)、それぞれの場所に遣わされて行きます。

なお現行の祈祷書になる前、文語祈祷書のときは大斎節や降臨節には「ハレルヤ」を唱えないとされていましたが、今はどんなときも「ハレルヤ！」と神さまを賛美します。またお葬式の最後にも、「ハレルヤ！」と唱和して出棺していきます。最初は戸惑うかもしれませんが、キリスト教の死についての考え方がここにあらわされています。

またキリスト教の教派によっては、お祈りや説教の途中に「ハレルヤ！」や「アーメン！」と声をあげる人もいます。神さまへの賛美を抑えることができないのだと思います。

次回は「万軍の主」です。お楽しみに。



「歌を歌う天使達」

ウィリアム・アドルフ・ブグロー

(1825-1905 年)

エルサレムのどの門も、喜びの歌をうたい、エルサレムの家々は唱える。

『ハレルヤ。ほめたたえよ。イスラエルの神を』と。神の聖なる御名を、とこしえにいつまでもほめたたえる者は祝福される。」

(トビト記 13 章 18 節)

